

1. 平成 24 年度 1 次試験結果

図表 1 1 次試験の結果の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
申込者数	16,595	16,845	17,934	20,054	21,309	21,145	20,210
受験者数①	—	—	—	—	—	17,832	17,168
受験者数② (A)	12,542	12,776	13,564	15,056	15,922	15,803	14,981
合格者数 (B)	2,791	2,418	3,173	3,629	2,533	2,590	3,519
科目合格者数 (C)	7,921	7,569	7,889	8,646	9,632	9,065	8,727
合格率 (B) / (A)	22.3%	18.9%	23.4%	24.1%	15.9%	16.4%	23.5%
科目合格率 (C) / (A)	63.2%	59.2%	58.2%	57.4%	60.5%	57.4%	58.3%
合格率+科目合格率	85.4%	78.2%	81.6%	81.5%	76.4%	74.0%	81.7%

※ H18 から現行制度となった。

※ 受験者数①：1 科目でも受験した人数 (H23 から公表)

受験者数②：欠席科目がない者の人数

(1) H24 の傾向 (対前年)

- 1) 申込者数：4.4%減 ⇒ 4 年連続の 20,000 人超え。ただし、2 年連続で減少。
- 2) 受験者数②：5.2%減 ⇒ 2 年連続で減少。4 年ぶりに 15,000 人を割る。
- 3) 合格者数：35.9%増 ⇒ 大幅に増加。3 年ぶりに 3,000 人を超えた。H18 以降では H21 に次いで 2 番目に多い。運営・中小の解答修正（最大で 4 点加点）の影響も考えられる。
- 4) 合格率：7.1 ポイント増 ⇒ 大幅に増加。3 年ぶりに 20%を超えた。H18 以降では H21 に次いで高い。
- 5) 「合格基準の弾力化」は行われず。

⇒1 次試験は、H22・H23 と難しい状況が続いていたが、難易度が緩和された。

<補足>

科目合格者数は非公表のため、科目合格者の受験番号から算出した（受験番号で、受験科目数（および受験科目）がわかるようになっている）。

2. データリサーチに基づく平成 24 年度 1 次試験分析

(1) 平均点

図表 2 平均点の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23 (A)	H24 (B)	差異 (B) - (A)
経済	53.7	56.3	64.0	70.3	45.0	53.2	63.2	10.0
財務	56.9	52.9	52.8	63.7	53.9	53.9	49.9	▲4.0
企業	61.4	58.4	60.0	60.4	58.0	56.2	56.9	0.7
運営	63.1	62.8	61.5	68.6	60.6	59.4	63.3	3.9
法務	59.8	61.9	56.7	56.7	55.3	62.0	56.5	▲5.5
情報	67.6	64.5	56.4	49.7	60.0	64.6	60.8	▲3.8
中小	56.5	57.1	68.0	52.7	62.9	53.1	63.4	10.4
平均	59.8	59.1	60.0	60.3	56.9	57.5	59.1	1.6
合格率	22.3%	18.9%	23.4%	24.1%	15.9%	16.4%	23.5%	7.1%

※ データ総数：H18 年 1,274 人、H19 年 1,155 人、H20 年 1,386 人、H21 年 1,995 人、H22 年 1,756 人、H23 年 1,779 人、H24 年 1,969 人。

※ H22 経済の全員加点は含まない。他の年度・科目の解答修正は全て反映。

※ 「差異」は小数点第 2 位を四捨五入しているため、小数点第 1 位の差異とは必ずしも一致しない。

- 1) 全体の平均点は、H23 に比べ 1.6 点上がり、59 点台となった（ただし、運営・中小の解答修正を含む）。H22・23 に比べ、難易度は緩和された。
- 2) H22 に史上初めて「合格基準の弾力化」が行われた経済は H23 に続いて易化し、3 年ぶりに 60 点を上回った。また、H23 に平均点が最も低かった中小も大幅に易化した。この 2 科目は H23 と比較して、約 10 点平均点が上がった。
- 3) 財務が平均点 50 点を下回り、最も難しい科目となった。49.9 点という平均点は財務では過去最低であり、他の科目と比較しても、H22 経済（45.0 点）、H21 情報（49.7 点）に次いで低くなっている。
- 4) 従来通り、重点科目（企業、運営、中小）が難しく、基礎的な科目（経済、財務、法務、情報）が易しいという傾向は全く見られない。重点科目・基礎的な科目と難易度の相関はない。
- 5) H23 の平均点上位 2 科目（情報、法務）の平均点が下がり、下位 2 科目（中小、経済）の平均点が上がっており、難易度の平準化を試みたことが示唆される。ただし、最高点（中小）と最低点（財務）の差が 13.5 点となり、H23 の 11.5 点（情報▲中小）よりも広がった。

6) H18 以降の各科目の平均点の標準偏差（バラツキ）を算出すると以下ようになる。

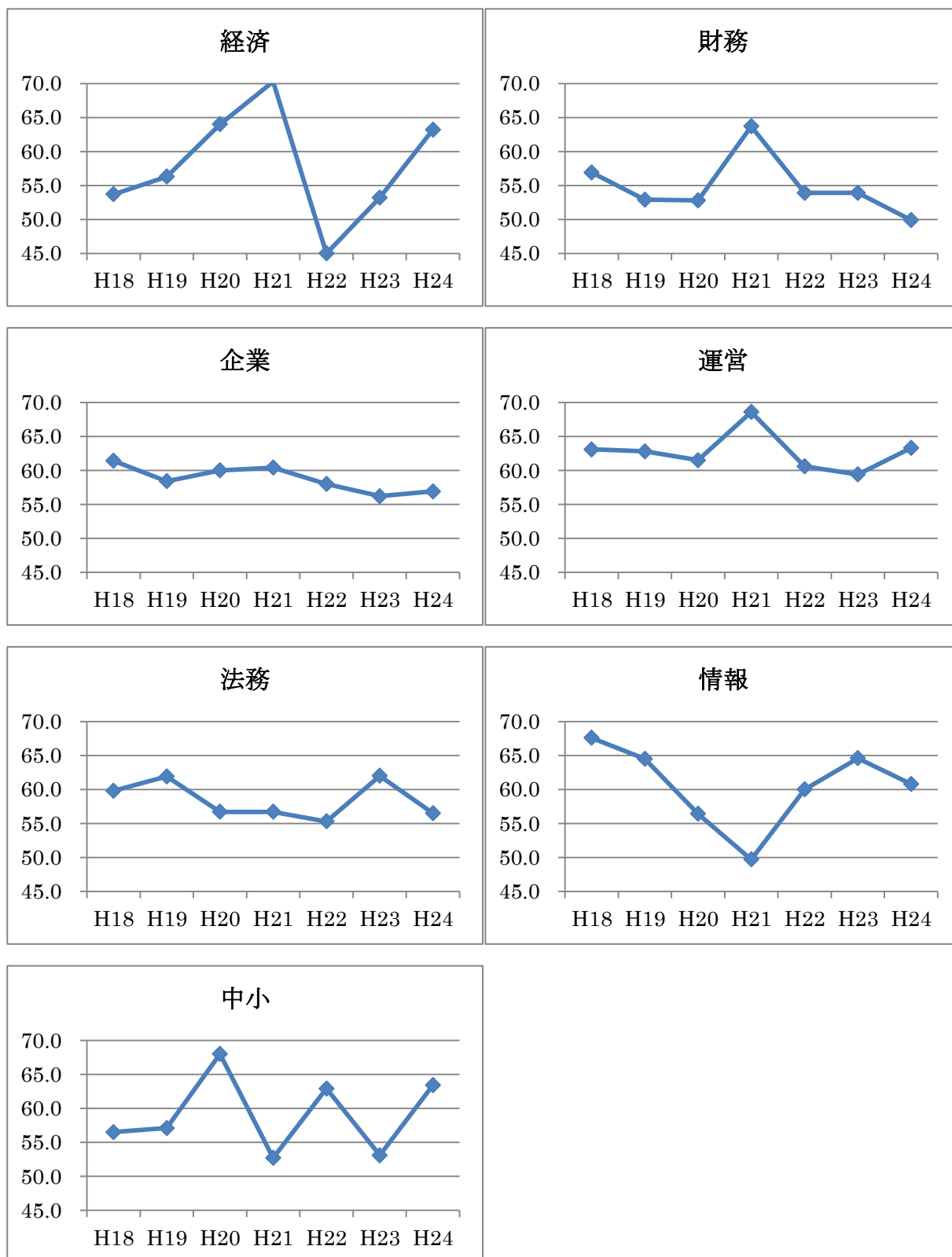
経済	財務	企業	運営	法務	情報	中小
9.03832889	4.43503958	1.91598245	2.95033237	2.78476494	5.99625927	5.7911449

標準偏差で見ると、経済のバラツキが最も大きく、難易度の変動が激しいことがわかる。逆に、企業は最も小さく、難易度が変動しにくいことがわかる。

※ データリサーチは性格上、ボーダーライン上の受験生が多く参加する。そのため、必ずしも受験生全体のデータを正確に反映しているわけではない点に注意が必要である。

(2) 科目ごとの平均点の推移

図表 3 科目ごとの平均点の推移



- 1) 年度ごとの難易度の変動は中小が最も激しく、難化と易化を繰り返している。
- 2) 経済は H21 まで易化した後、H22 に極端に難化し、直近では再び易化に移行している。
- 3) 情報は H21 まで難化した後、易化に転換したが、直近では再び難化傾向が見られる。
- 4) 他の 4 科目は概ね安定している。運営は総じて平均点が高めに推移している。法務と財務は多少の変動はあるものの、概ね平均点は低めに推移している。最も安定しているのは企業であるが、平均点は緩やかに下がりつつある。
- 5) 多少の例外はあるが、平均点が 60 点を超えると翌年度の平均点は下がる。65 点を超えると、例外なく翌年度の平均点は下がる（H18→19 情報、H20→21 中小、H21→22 経済・運営）。なお、H24 に 65 点を超えた科目はない。
- 6) 財務を除いて、平均点が 55 点を下回ると翌年度の平均点は上がる（H18→19 経済、H21→22 情報・中小、H22→23 経済、H23→24 経済・中小）。財務は、H20→21 に平均点が上がったことはあるが、H19→20、H22→23、H23→24 は横ばいないしは低下であり、例外的に動く。なお、H24 に 55 点を下回った科目は財務のみである。

(3) 60 点以上

図表 4 60 点以上の構成比の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
経済	34.7%	47.7%	71.0%	83.0%	14.7%	36.2%	68.1%
財務	42.7%	34.7%	32.4%	68.3%	37.5%	39.3%	26.7%
企業	60.8%	48.5%	54.9%	56.7%	45.0%	37.5%	41.4%
運営	65.9%	69.0%	62.0%	83.9%	56.1%	53.6%	68.2%
法務	55.5%	58.9%	46.3%	40.1%	36.6%	60.0%	47.1%
情報	77.2%	75.5%	45.3%	22.0%	57.2%	76.1%	62.6%
中小	42.3%	47.6%	80.0%	26.3%	67.7%	31.0%	67.1%
平均	54.2%	54.6%	56.0%	60.3%	45.0%	47.7%	54.4%
合格率	22.3%	18.9%	23.4%	24.1%	15.9%	16.4%	23.5%

※ データリサーチ上で 60 点以上の人数の全体に占める割合のこと。50%以上を斜体で表記。

- 1) 構成比が 50%以上の科目が過半数（4 科目）を占める年度（H18、H20、H21、H24）の合格率は 20%を上回っており、過半数を占めない年度（H19、H22、H23）の合格率は 20%を下回っている。⇒得点を稼ぎやすい科目（60 点以上の構成比が 50%以上の科目）の数が合格率に大きな影響を与えと考えられる。
- 2) 7 科目の「平均」は、H22・23 は 50%を下回っており、この 2 年度は特定の科目で得点を稼げにくくなっていた。それが、H24 は 50%を上回っており、難易度の緩和を裏付けている。
- 3) 科目別に見ると、運営は一度も構成比 50%を下回ったことがなく、長期的にみれば運営が最も得点を取りやすい。また、H22・23 は 60%を下回っており、運営の得点を取りにくくなっていることがこの 2 年度の難化の要因の 1 つとなっている。

(4) 40 点未満

図表 5 40 点未満の構成比の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
経済	7.8%	9.7%	1.5%	1.1%	<i>29.1%</i>	<i>12.0%</i>	4.8%
財務	8.7%	<i>12.7%</i>	<i>15.5%</i>	6.6%	9.1%	<i>12.0%</i>	<i>18.6%</i>
企業	1.6%	2.0%	2.8%	1.8%	2.7%	3.6%	4.0%
運営	1.6%	1.6%	1.9%	1.2%	3.1%	3.7%	3.2%
法務	3.2%	2.3%	5.3%	6.3%	9.0%	3.1%	5.5%
情報	1.1%	1.9%	7.5%	<i>14.3%</i>	2.4%	1.4%	2.6%
中小	6.0%	9.6%	1.1%	<i>10.5%</i>	2.7%	<i>12.3%</i>	4.6%
平均	4.3%	5.7%	5.1%	4.0%	8.3%	6.9%	6.2%
合格率	22.3%	18.9%	23.4%	24.1%	15.9%	16.4%	23.5%

※ データリサーチ上で 40 点未満の人数の全体に占める割合のこと。10%以上を斜体で表記。

- 1) H18 を除き、各年度に構成比 10%以上の科目が存在する。情報、中小と 2 科目が 10%以上となった H21 の合格率が過去 6 年間で最高となっていることから、60 点以上の構成比に比べると、40 点未満の科目数の合格率への影響は小さい。
- 2) H22 の経済（正解修正後の 29.1%）は、過去最高。正解修正後であっても、10 人に 3 人が 40 点を下回ったことになる。
⇒H22 の経済で「合格基準の弾力化」が行われたことから、平均点に加え、40 点未満の構成比も「合格基準の弾力化」に影響を与えていると考えられる。
- 3) H23 は 10%以上が初めて 3 科目出現した（経済、財務、中小）。合格率の低さは、H22 が経済への一極集中であるのに対し、H23 は複数の科目の高難易度が大きく影響している。
- 4) H24 の財務の 18.6%は、H22 経済に次いで高い。しかし、合格率は H23 よりも高くなっており、40 点未満の科目の合格率への影響が小さいことを裏付けている。

(5) 標準偏差

図表 6 標準偏差の推移

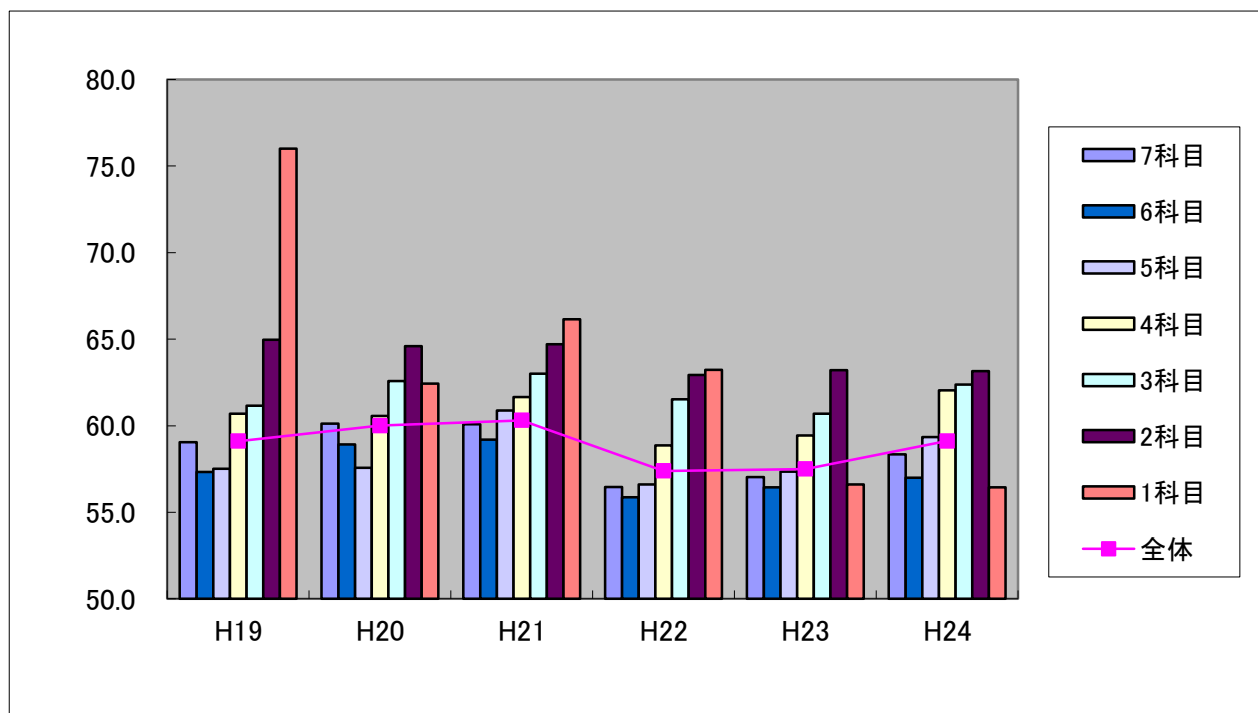
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
経済	11.4	<i>14.1</i>	11.8	12.5	<i>12.4</i>	12.7	<i>13.7</i>
財務	<i>12.6</i>	13.9	<i>12.9</i>	<i>15.4</i>	<i>12.4</i>	<i>13.5</i>	13.3
企業	9.7	9.7	9.8	9.3	9.3	8.8	9.7
運営	10.1	10.4	9.9	10.1	10.5	10.1	11.2
法務	10.6	11.9	11.5	11.1	11.5	11.4	11.2
情報	11.4	12.4	12.8	11.2	10.6	10.5	11.3
中小	10.6	13.1	11.1	10.2	10.2	11.1	12.5

※ 当該年度のデータリサーチ参加者の得点の標準偏差のこと。斜体は当該年度の最高値。

- 1) 標準偏差（バラツキ）は、得点の差の生じやすさの目安となる。過去 7 年間、経済（H19、H22、H24）と財務（H18、H20～23）以外の科目で標準偏差が最も大きくなったことはない。この 2 科目は得点の差が付きやすいといえる。特に、H21 の財務の 15.4 は全科目を通じ過去最高であり、H21 は、財務の平均点が唯一 60 点以上となった年度であることから、易しくなった時にはさらに得点の差が付きやすいともいえる。
- 2) 企業は過去 10 を超えたことがなく最も安定しており（標準偏差が小さい）、差が生じにくい。

(6) 受験科目数別の平均点 (科目合格者が登場する H19 以降)

図表 7 受験科目数別平均点 (データリサーチ)



※ 左から右にかけて科目数が少なくなる (7→1 科目の順)。

- 1) 概ね、4 科目受験から、受験科目数が減るに連れて平均点が上がっており、受験科目数が少ないほうが平均点は高い。ただし、1 科目受験の場合、2 科目受験よりも平均点が低くなる年度がある (H20、H23、24)。⇒1 科目受験の場合、その科目の難易度に大きく影響を受けることが考えられる。
- 2) どの年度でも、6 科目受験は、7 科目受験よりも平均点が低い。

3. 1 次試験合格者および科目合格者の分析

(1) 1 次試験合格者の受験科目数（科目合格者が出現する H19 以降）

図表 8 1 次試験合格者の受験科目数

受験科目数	H19	構成比	H20	構成比	H21	構成比	H22	構成比	H23	構成比	H24	構成比
0科目	0	0.0%	2	0.1%	2	0.1%	5	0.2%	5	0.2%	1	0.0%
1科目	10	0.4%	84	2.6%	66	1.8%	61	2.4%	71	2.7%	49	1.4%
2科目	68	2.8%	310	9.8%	254	7.0%	246	9.7%	238	9.2%	244	6.9%
3科目	237	9.8%	456	14.4%	434	12.0%	374	14.8%	412	15.9%	501	14.2%
4科目	331	13.7%	412	13.0%	486	13.4%	371	14.6%	428	16.5%	621	17.6%
5科目	260	10.8%	267	8.4%	380	10.5%	201	7.9%	262	10.1%	420	11.9%
6科目	179	7.4%	193	6.1%	239	6.6%	164	6.5%	182	7.0%	309	8.8%
7科目	1,333	55.1%	1,449	45.7%	1,768	48.7%	1,111	43.9%	992	38.3%	1,374	39.0%
計	2,418	100.0%	3,173	100.0%	3,629	100.0%	2,533	100.0%	2,590	100.0%	3,519	100.0%

- 1 次試験合格者では、7 科目受験者が最も多い。ただし、H20 以降、7 科目受験者の構成比は 50% を下回っている。逆にいえば、合格者の過半数は、免除科目を有することになる。
- H23・24 は、7 科目受験者の構成比が 4 割を下回っており、初受験者が受かりにくい（＝免除科目を有したほうが受かりやすい）ことが示唆される。
- 7 科目受験者を除くと、概ね 3～4 科目の受験者の構成比が高くなっている。⇒残った科目の難易度が下がり、難易度が上がった科目を免除しているからと考えられる。
- H20 以降、0 科目受験者（7 科目免除者）が出現。これは、例えば 1 年目に財務のみ 40 点を下回って 1 次試験不合格、ただし残り 6 科目が科目合格し、2 年目に財務のみではなく中小を加えて、トータルでは 1 次試験不合格となったものの財務は科目合格したとする（財務のみにしていれば合格したことになる）。そして、3 年目に 1 年目の 6 科目＋2 年目の財務＝7 科目の免除を申請し、何も受験せず（試験会場に行かなくても）に 1 次試験を合格したような場合である。ただし、この場合でも 1 次試験の受験手続（受験料支払等）は必要であり、また合格が 100%保証されているとはいえ合格発表日までは 1 次試験合格者の資格を得られない（2 次試験にも進めないし、養成課程にも進めない）。
⇒科目合格し、免除資格を得ているのにもかかわらず免除申請せずに受験する（合格科目をあえて再受験する）と、上記のように合格が 1 年遅れるリスクがある。

(2) 年度別科目合格者数等

図表 9 科目別科目受験者数・合格者数等の推移

	H18		H19		H20		H21		H22		H23		H24	
	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b
経済	13,233	1,253	12,575	1,328	12,850	3,621	12,817	4,991	12,168	739	14,304	1,228	14,852	3,689
財務	13,140	1,358	12,455	829	13,171	537	15,209	2,971	14,459	1,631	14,388	1,538	14,213	534
企業	13,246	2,998	11,607	1,664	12,108	2,063	14,053	2,635	14,523	2,889	14,025	1,838	13,926	1,741
運営	13,049	2,945	11,270	2,905	10,861	1,880	13,259	3,958	13,251	2,416	13,333	1,858	13,563	2,630
法務	12,942	2,172	11,834	2,600	11,448	1,789	13,692	1,434	15,106	1,916	14,864	3,465	12,936	2,341
情報	12,494	4,881	9,878	3,490	9,966	1,435	13,514	519	15,497	3,996	13,492	4,870	11,145	2,880
中小	12,849	1,024	12,519	1,112	12,853	3,531	12,772	369	15,131	3,661	13,727	706	14,088	2,455
a: 科目受験者数、b: 科目合格者数														

図表 10 科目別科目合格率の推移

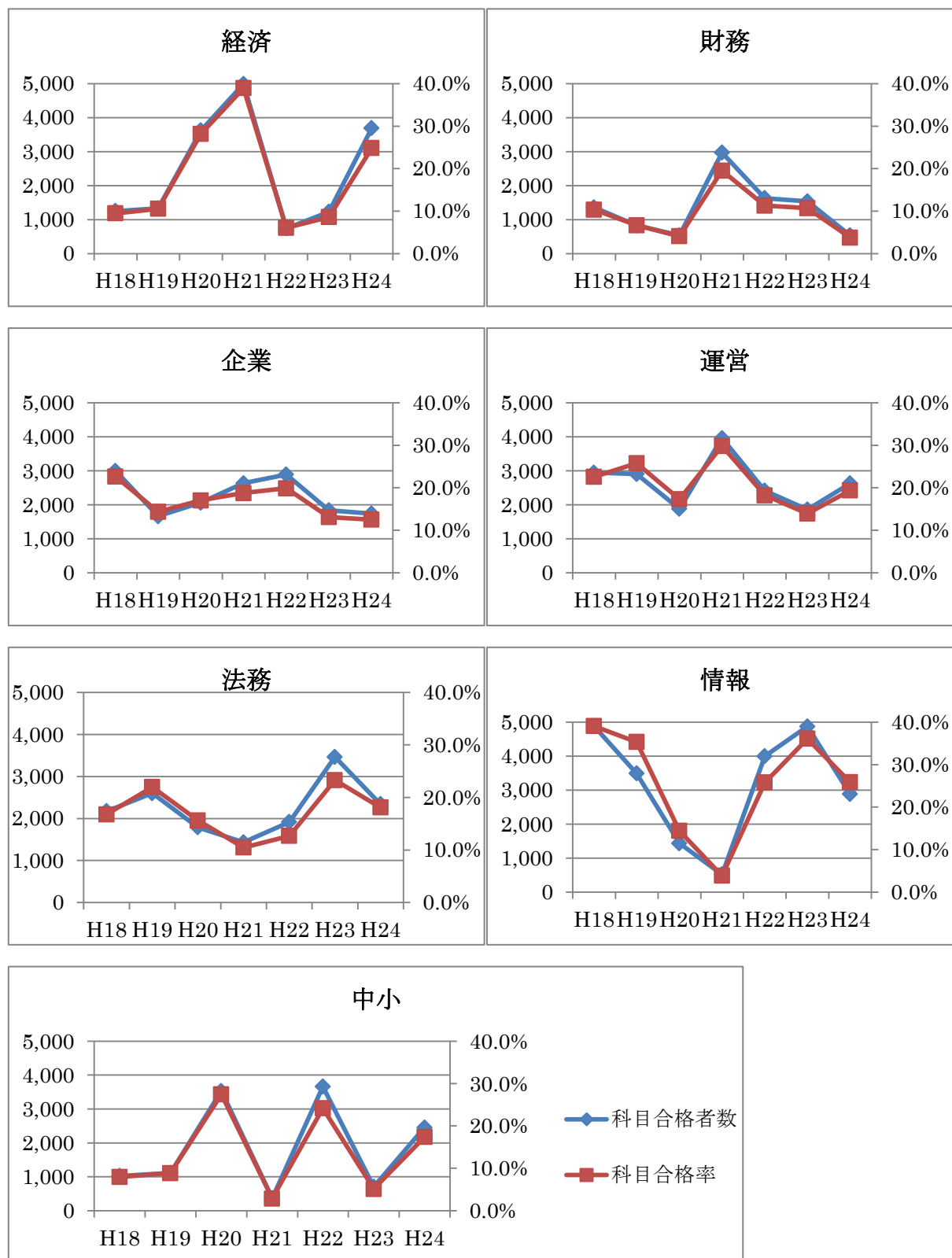
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
経済	9.5%	10.6%	28.2%	38.9%	6.1%	8.6%	24.8%
財務	10.3%	6.7%	4.1%	19.5%	11.3%	10.7%	3.8%
企業	22.6%	14.3%	17.0%	18.8%	19.9%	13.1%	12.5%
運営	22.6%	25.8%	17.3%	29.9%	18.2%	13.9%	19.4%
法務	16.8%	22.0%	15.6%	10.5%	12.7%	23.3%	18.1%
情報	39.1%	35.3%	14.4%	3.8%	25.8%	36.1%	25.8%
中小	8.0%	8.9%	27.5%	2.9%	24.2%	5.1%	17.4%

- 1) 科目合格者数の最多は 4,991 人 (H21 経済)、最少は 369 人 (H21 中小)。
- 2) 科目合格率の最高は 39.1% (H18 情報)、最低は 2.9% (H21 中小)。
- 3) 「合格基準の弾力化」が行われた H22 経済は合格者数 739 人、科目合格率 6.1%。これは正解修正 (全員正解) + 全員加点後の数字。H21 中小 (合格者数 369 人、合格率 2.9%) で「合格基準の弾力化」が行われなかったことから、H22 の経済は、素点レベルでは H21 の中小を下回ったものと推測される。

※ 科目合格者は、1 次試験合格者を含まないため、必ずしも受験生全体のデータを正確に反映しているわけではない点に注意が必要である。

(3) 科目合格者数の推移

図表 11 科目合格数・科目合格率の推移



- 1) 概ね、データリサーチの平均点 (p.4) と同じ傾向である。
- 2) 科目合格者数が 4,000 人を超えると、翌年度の科目合格者は減る (H18→19 情報、H21→22 経済、H23→24 情報。なお、H21→22 の運営も、3,958 人から 2,416 人に減少している)。なお、H24 に 4,000 人を超えた科目はない (最多は経済の 3,689 人)。
- 3) 科目合格率が 30%を超えると、翌年度の科目合格率は下がる (H18→19 情報、H19→H20 情報、H21→22 経済、H23→24 情報。なお、H21→22 の運営も、29.9%から 18.2%に低下している)。なお、H24 に 30%を超えた科目はない (最高は情報の 25.8%)。
- 4) 概ね、科目合格者数が 1,000 人を下回ると、翌年度の科目合格者数が増える (H20→21 財務、H21→22 情報・中小、H22→23 経済、H23→24 中小。例外は H19→H20 の財務)。なお、H24 は財務が 1,000 人を下回っている (534 人)。
- 5) 概ね、科目合格率が 10%を下回ると、翌年度の科目合格率は上がる (H18→19 経済・中小、H19→20 中小、21→22 情報・中小、H22→23 経済、H23→24 経済・中小。例外は H19→H20 の財務)。なお、H24 は財務が 10%を下回っている (3.8%)。

<参考 科目合格者数と科目合格率の標準偏差>

	経済	財務	企業	運営	法務	情報	中小
科目合格者数	1656.4318	850.47925	566.03458	723.18532	658.64348	1669.446	1366.2183
科目合格率	12.569%	5.423%	3.777%	5.437%	4.635%	12.813%	9.655%

- 1) データリサーチの平均点 (p.3) と異なり、科目合格者数・科目合格率ともに、標準偏差が最も大きい科目は情報となっている。僅差で経済が続いている。
- 2) 標準偏差が最も小さい科目は、科目合格者数・科目合格率ともに企業であり、次いで法務となっている。こちらは概ねデータリサーチの平均点 (p.3) と同じ傾向。

★★★H25 の予想★★★

- 1) H24 の 1 次試験合格者が 3,500 人を超えたことを考えると、試験実施側が H25 の 1 次試験合格者を減らす方向に動く可能性がある。合格率は受験者数の影響を受けるため判断が難しいが、これも 23.5%から下がる可能性がある。
- 2) 難易度が高くなる科目として、中小と経済が考えられる。ともにデータリサーチの平均点は 65 点を超えていないが、中小は順番から難しくなる年度に該当し、経済は科目合格者数が最も多かった (3,689 人) ことがその理由である。ただし、経済は H20→H21 にかけて科目合格者数が増えた経緯もあり (3,621 人→4,991 人)、H22・23 が難しかったことを考えると、まだ難化しない可能性もある。
- 3) 情報も、難易度が高まりつつあるので、H24 より難しくなる可能性がある。
- 4) H24 に最も難しかった財務は、その反動で易しくなる可能性が高い。ただし、財務はデータリサーチの平均点が 60 点以上となったことは過去 1 度しかないので (H21)、過度に易化を期待しないほうがよい。
- 5) 他の 3 科目 (企業、運営、法務) は概ね安定しており、多少の変動はあったとしても、大幅な難易度の変化は生じにくいと考えられる。